

『特別の教科 道徳』 指導の手引



町田市「特別の教科 道徳」・規範教育検討委員会
(2018年 4月)

～はじめに～

「特別の教科 道徳」は、小学校では2018年度、中学校では2019年度から全面実施となります。このリーフレットでは、新しい学習指導要領を基に、以下（目次）の項目（①～④）などについて詳しく解説します。指導計画の作成及び学習指導の際に活用を図るようお願いいたします。

【特別の教科 道徳（道徳科）の目標】

第2節第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性^{*}を養うため、

- ①道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、
- ②物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、
- ③自己（人間として）の生き方についての考えを深める

学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

注：（ ）は中学校

※『道徳性とは、人間としてよりよく生きる傾向性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲及び態度の内面的資質である。』（学習指導要領解説 特別の教科道徳編 第2節 道徳性の理解と評価）

【学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】

（第1章 総説 1 改定の経緯）

～略～ 発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童（生徒）が自分自身の問題と捉え、向き合う

- ④「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものである。

目次

- ①道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめる・・・1
- ②物事を多面的・多角的に考える・・・2
- ③自己の生き方についての考えを深める・・・3
- ④「考える道徳」「議論する道徳」・・・4
- ⑤明確な指導観に基づく授業の創造・・・6
- ⑥実践事例（町田第一小学校）・・・7
- ⑦今後の道徳科において取り組まなければならないこと・・・11
- ⑧「特別の教科 道徳」（道徳科）について学ぶ！Q&A・・・13

① 道徳的諸価値についての理解を基に、 自己を見つめる

道徳的諸価値についての理解

児童・生徒が将来、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて主体的に判断し、よりよく生きるためには何をすべきかを理解するための学習が大切である。

- ・よりよく生きることについて考える。(価値理解)
- ・良いと思ってもなかなか実現できない。(人間理解)
- ・人それぞれ考え方、感じ方は様々である。(他者理解)

自分との関わりで捉えることが重要である。

自己を見つめる

これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めることが重要である。

- ・自己を見つめる学習(様々な経験から自分自身を見つめる)
- ・自らを振り返る学習(何を学び、自分自身がどのように変容したかを知る)

(例)

『二通の手紙』(文部科学省「私たちの道徳」中学校)

【C 規則の尊重】

市営動物園の入園係をしていた元さんが、ある日、入園終了時間が過ぎた後、幼い二人の姉弟を弟の誕生日という理由で、入園させた。閉園時間を過ぎても出てこない姉弟が小さな池で遊んでいるところを発見され事件となった。

母親から一通の手紙(感謝)

子どもの気持ちを考える自分

「懲戒」を告げる一通の手紙(処分)

事故を予測し、規則を守らせる自分

自分だったら、どちらの行動をとるだろうか。自分の経験から考えてみよう。

② 物事を多面的・多角的に考える

物事を多面的・多角的に考える指導

物事を一面的に捉えるのではなく、児童・生徒自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切である。

例えば・・・

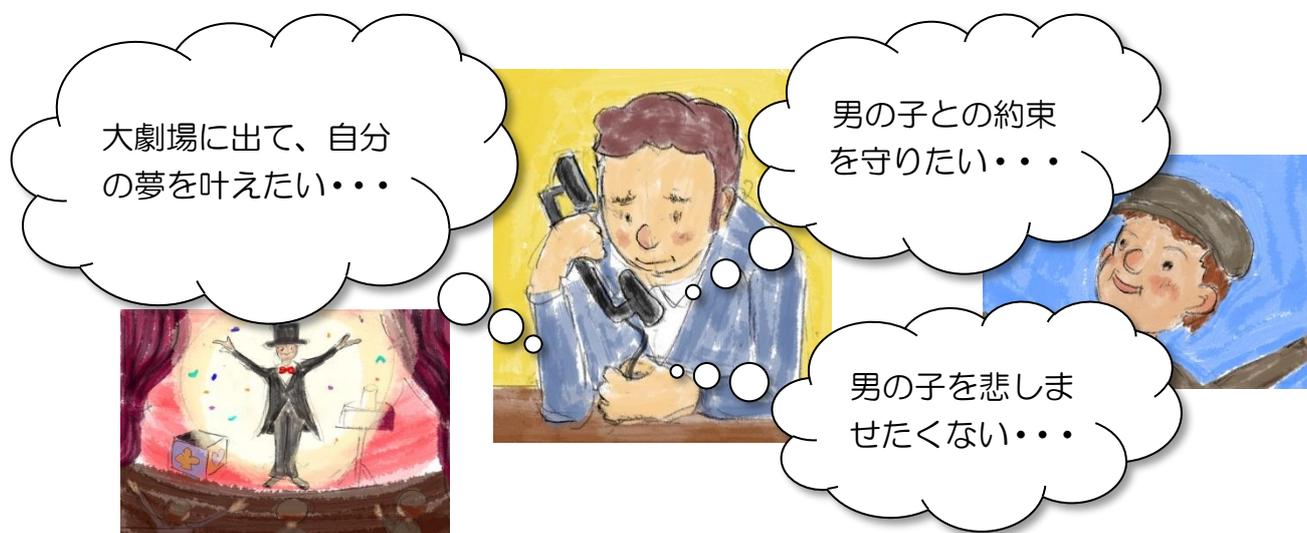
・発達の段階に応じて二つの概念が互いに矛盾、対立しているという二項対立の物事を取り扱う。

『手品師』（東京書籍 6年）

【A 正直、誠実】

【ねらい】 大劇場に行かないと決意した手品師の思いを考え、誠実に明るい心で生活をしていこうとする心情を育てる。

【発問】 友達からの誘いに迷いに迷っている時、手品師はどんなことを考えていたでしょう。



この発問では、「大劇場に出るといふ、やっとつかんだチャンスを逃したくない。」【A 希望と勇気、努力と強い意志】という考えと、「男の子との約束は破るわけにはいかない。」【A 正直、誠実】という考えが出るのが予想される。また、一人ぼっちの男の子を悲しませたくない【B 親切、思いやり】という意見も出るであろう。

このように、手品師の心の葛藤を多面的・多角的に考えさせることで、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から理解させることが大切である。また、本時のねらいからそれないようにするためには、この発問で多様な意見を出させた後で、「それでも大劇場に行かないと決意した手品師の思い」を問い、その思いに共感させることを通して、自己の生き方についての考えを深めることが肝要である。

③ 自己の生き方についての考えを深める

児童・生徒が道徳的価値を自覚するとともに、自己の生き方についての考えを深めていることを意識させることが重要である。

- 物事を多面的・多角的に考えることで、自己の生き方についての考えを深めている。
- 自分自身の体験や経験を通して考え方や感じ方などを確かに想起することにより、自己の生き方についての考えを深めることを強く意識して指導することが重要である。

- 自分自身の問題として受け止められるようにする。
- 他者の多様な考え方に触れることで、身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。
- これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする。

(注意すべき点) 教師の一方的な押し付けや、単なる生活経験の話合いとならないように留意する。

(例)

『許さない心』(東京書籍2「明日をひらく」中学校第2学年)

【C 公正、公平、社会正義】

祭りの縁日のさなか、暗がりではたばこを吸っている他校生徒に

「こんなところで、たばこをすうなよ」と、自分のクラスの男子生徒が注意した。

社会のルールとして悪いことは悪いと、はっきり言える自分
きまりが厳しいと、かえって逆らいたくなる自分

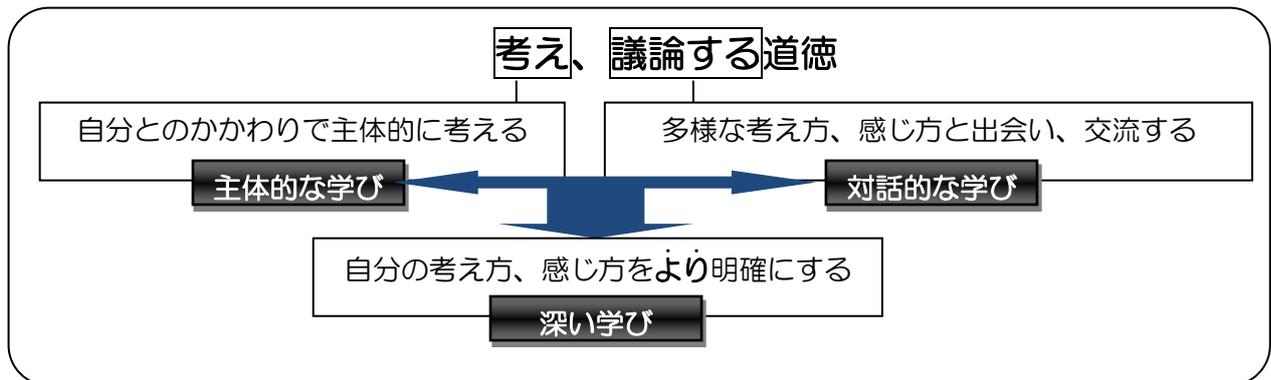


当人同士の問題だし、私には関係ないと逃げる自分
規制されると破りたくなるのが若者の心理 (心理学者の分析)

この他にも、社会にある同じようなルールを破っている場面をあげて、それについて考えてみる (携帯電話の通話禁止場所で、通話をする人など)。

④

「考える道徳」「議論する道徳」



◇児童・生徒が、自らの成長を振り返って成長を実感できる

◇児童・生徒が、これからの課題や目標を見付けることができる

実現に向けた指導の工夫が求められる

問題解決的な学習展開

中心的な課題に対して、自分との関わりで見つめさせることで、自分にはどのようなよさがあるか、どのような改善すべきことがあるかなどを、話合わせる。児童・生徒一人一人が課題に対する自分なりの答えを導き出すことが重要である。

【工夫】

「主題に対して児童・生徒の興味・関心を高める導入」「主題に対して自己を見つめ直し、希望をもたせる終末」などの工夫を行う。ペアやグループ学習の導入が目的化しないようにする。

体験的な学習等を取り入れた学習展開

自分との関わりで多面的、多角的に考えられるように、挨拶や丁寧な言葉遣いを具体的に行為として表現させることで、児童・生徒は礼儀のよさや作法の難しさを実感し、考えることができる。

【工夫】

読み物教材であれば、教材の登場人物の言動を即興的に演技にして考える役割演技を取り入れることで、実感を伴い、登場人物を自分のこととして捉え、考えを深めることができる。

多様な実践活動等を生かす学習展開

実践活動や体験活動を授業で振り返り、考えたこと、感じたことを話合いの場面で生かすことが考えられる。特に、特別活動において、道徳の内容項目に関連した実践活動や体験活動が計画されている場合には、児童・生徒の体験を基に考えを深めることができる。時には、児童・生徒の共通の関心事を問題意識として提示し学習を展開していくこともできる。

自己の生き方
についての
考えを深める

物事を
多面的・多角的
に考える

教材提示

教材と児童・生徒との出会いを大切にする。紙芝居、影絵、人形、ペープサートなどの工夫を通して、内容への共感や感動、疑問をもたせる。時には、音声や音楽を生かす。

発問

「考える必然性や切実感のある発問」「自由な思考を促す発問」「物事を多面的・多角的に考えられる発問」について、ねらいに関わる中心的な発問を行う。

話し合い

児童・生徒相互の考えを深める活動である。考えを出し合い、まとめたり、比較したりする。座席配置の工夫やペアでの対話、少人数グループでの話し合いを取り入れる。

書く活動

児童・生徒が自分自身とじっくり向き合い、自らの考えを深めたり、整理したりする。手紙や吹き出し等のワークシートや自己評価欄の活用、また記述の発表による意見交流を行う。

考え、議論する 道徳授業への 7つの工夫

表現活動

児童・生徒に特定の役割を与えて即興的に演技する「役割演技」の動きや言葉を模倣して心情等の理解を図る「動作化」等を通して、児童・生徒が自分自身の考えを表現し、より広げ、深められるようにする。

説話

教師の伝えたいことを基に、ねらいの内容をより身近に感じられるようになる。教師の「まとめ」としての話が児童・生徒の思考をより深めたり、考えを整理したりする。

板書を生かす

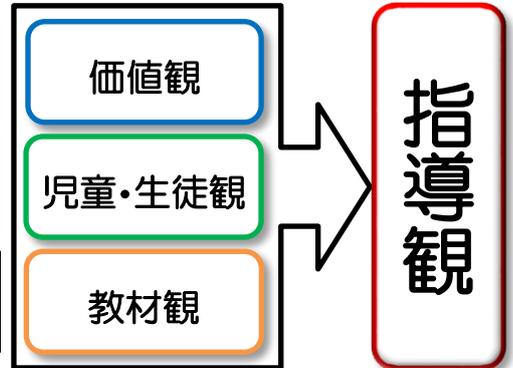
板書は、児童・生徒の思考を深める重要な手がかりである。「共通のノート」として活用する。授業のねらいに基づき、対比的、構造的に示し、中心場面の問いを捉えさせる場合もある。

⑤ 明確な指導観に基づく授業の創造

「明確な指導観」をもつとは・・・

児童・生徒に、「教材を通して、自分との関わりで何を考えさせたいのか。」を明確にすること。

- 1 ねらいとする道徳的価値（内容項目）について、学習指導要領に基づき、教師が明確な考えをもつ。
- 2 これまでの指導による児童・生徒の状況（よさや課題）を把握し、本時の方向性を示す。
- 3 「価値観」「児童・生徒観」をもとに教材の活用の仕方を定める。



価値観

【B 友情、信頼】

小学校低学年では、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら、友達と仲よくする大切さを育てていくようにする必要がある。

学校教育の様々な場面で、この価値観に基づいた指導を行う。

その結果、児童は
友達と仲よく遊んだり生活したりすることはできている。 **よさ**

しかし

友達の立場に立って考え、助け合うことはまだ難しい。 **課題**

「仲よくする」から、「仲よくし、助け合う」に意識が向くように指導する必要がある。

児童・生徒観

実態からどのように教材を活用するか。

教材観

『おかげないりすさん』（文部科学省「わたしたちの道徳」小学校）

【B 友情、信頼】

かめたちとりす双方の立場で考えさせることで、友達同士仲よく助け合うことのよさに気付かせたい。

指導の工夫 …… 発問構成 役割演技 ワークシートなど

役割演技でそれぞれの立場の気持ちを考えさせたい。

⑥ 実践事例（町田第一小学校）

研究構想図

目指す児童像
よりよく生きる子

低学年分科会

重点
A 主として自分自身に関すること
児童像
素直で自分の生活を大切にする子

中学年分科会

重点
B 主として人との関わりに関すること
児童像
温かい心で身近にいる人を大切にする子

高学年分科会

重点
C 主として集団や社会との関わりに関すること
児童像
正しい心で集団生活を大切にする子

ひまわり分科会

発達の特性に応じて、明るい心で、
自分もみんなも大切にする子

研究主題
考え、認め合う道徳授業の創造

研究の仮説

道徳の授業において、児童一人一人が自分の考えを明確にもち、他者の考えを受け止め、認め合えるような場面を設定することで、自分の生き方について深く考え、よりよく生きる子を育成することができるだろう。

理論構成

- 研究主題に対する基礎研究
- 調査研究

環境整備

- 校内環境の整備

授業研究

- 検証授業の実施
- 肯定的な評価に関する研究
- 別葉の作成

授業スタイルの確立（町田第一小学校）

まちいちスタイル 道徳授業の進め方（例）

① つかむ

- ・効果的な教材提示
- ・より主題に迫る

② 見つめる

- ・主題に迫るための発問
 - ・自分自身の考えをもつ
- 書く
考える

③ 認め合う

- ・友達と考えを伝え合う
 - ・交流活動
 - ・多様な考えに触れる
- 関わり合い
学び合い



④ 深める

- ・自分の生活を振り返る
 - ・価値への理解を深める
 - ・人間への理解を深める
 - ・他の人への理解を深める
- 自分の生活に
活かす



あいさつは大事だとよく言われますが、相手を尊敬する気持ちをもってあいさつすることが大事だと知りました。



よくないことだと分かっているけど、周りの人に流され、ついしてしまうことが、ほくにもありました。



友達はほくと違う考えをもっていることを知ることができました。その考えも一理あるなあと思いました。

自分の生き方についての 考えを深める

環境面の整備（町田第一小学校）



【道徳ノート】

- ・ワークシートを個人でファイリング
- ・整理し、評価に活用する



【教材整理】

- ・場面絵や発問カードを整理して保管
- ・教材研究・授業で活用



【道徳の木】

- ・授業内容をまとめて校舎内に掲示
- ・月1回更新、授業の様子を伝える



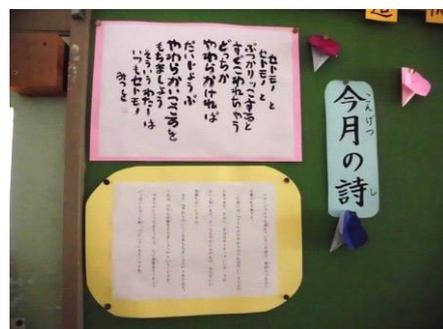
【見つけようみんなのキラリ】

- ・友達の良いところなどを書く
- ・各教室に掲示し、良さに気付く



【道徳の足あと】

- ・各学級で授業の概要を記録
- ・振り返り・学習の積み重ねを意識



【道徳の詩】

- ・年間指導計画に沿った詩を掲示
- ・月1回更新、全校朝会で紹介

評価の具体例（町田第一小学校）

【低学年】

主題「やさしいところで」
B 親切・思いやり
教材「はしのうえのおおかみ」
東京書籍

ねらい
おおかみが自分の意地悪な行動を振り返り、友達に温かい心で接することを通して、身近な人に進んでその行いをしようとする道徳的実践意欲を育てる。

通知表所見例

親切について考える「はしのうえのおおかみ」では、これから「泣いている友達がいたら声をかける。」と身近な人たちに優しい心で接し親切にしようとする意欲をもつことができました。

【中学年】

主題「目標にむかって」
A 希望と勇気、努力と強い意志
教材「いつかにじをかける」
東京書籍

ねらい
つらい練習にもあきらめなかった高橋選手の気持ちを考える活動を通して、努力し続けることの大事さに気づき、自分で建てた目標に向かって、粘り強くやり遂げようとする道徳的実践意欲を育てる。

通知表所見例

「いつかにじをかける」の学習では、「わからないところやうまくいかないところを練習していこう」と振り返っていました。自分で立てた目標に向かって、粘り強くやり遂げようとする大切さについて考えを深めることができました。

【高学年】

主題「本当の自由とは」
A 善悪の判断、自立、自由と責任
教材「うばわれた自由」
わたしたちの道徳

ねらい
自由をうばわれたジェラルド王の気持ちを考える活動を通して、自由であることのよさとそれに対する責任の重さを理解し、自律的に責任ある行動をしようとする道徳的態度を育てる。

通知表所見例

「うばわれた自由」の学習では、「周りの人のことを考え、いい自由をふやしたい」と振り返っていました。自分を律して行動するよさや自由のよさについて考えを深めることができました。

【ひまわり学級】

主題「ありがとうの気持ち」
B 感謝
教材「机ふき係のめぐみさん」
自作教材

ねらい
友達に「ありがとう」と言われた時のめぐみさんのうれしい気持ちを考えることを通して、すすんで感謝の気持ちを言葉で表そうとする道徳的心情を育てる。

通知表所見例

同じ意見の時は「グー」、違う時は「パー」のハンドサインがよくなりました。ワークシートもよく考えて自分の意見を書いて、発表も積極的にできました。
*特別支援学級では発達段階に応じた個々の目標について肯定的な評価を行っている。

⑦ 今後の道徳科において 取り組まなければならないこと

道徳教育の全体計画及び別葉の作成

- ①各学校の具体的な道徳教育の重点目標を設定する。
例) 相手のことを思いやり、しっかりとした規範意識をもった人間に育ててほしい。
- ②道徳教育の重点目標のポイントを明確にする。
例) 「思いやり」、「規範意識」
- ③道徳教育の重点目標のポイントに関わる道徳科の内容を明確にする。
例) 「親切、思いやり」、「規則の尊重」
- ④当該の道徳の内容に関わる道徳科以外の指導を明確にする。
- ⑤道徳科以外の指導の内容及び時期を明確にする。
- ⑥重点以外の道徳科の時間以外の指導の内容及び時期を明確にする。

*学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の内容及び進め方は、学校の実情によって異なる。

道徳科の授業の確実な実施

(1) 計画的、発展的な指導を行うことが重要

道徳教育の全体計画に基づき、各教科等の年間指導計画との関連をもちながら児童・生徒の発達段階に即して計画的、発展的に指導する。

- *道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たす。
- *道徳の内容項目について、各学年においてすべて取り上げることにする。

(2) 学校の教育活動全体で行う道徳教育

- ①道徳教育推進教師を中心とした指導体制
- ②道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導
- ③児童・生徒が主体的に道徳性を育むための指導
- ④多様な考え方を生かすための言語活動
- ⑤問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導
- ⑥情報モラルと現代的な課題に関する指導
- ⑦家庭や地域社会との連携による指導

学習指導要領解説 特別の教科道徳編 P. 87～P. 101 (小学校) 参照

学習状況や道徳性に係る成長の様子の継続的な把握

◇評価については、児童・生徒の成長の様子を把握することを基本とし、
数値評価は行わない。

(新) 児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月）



(旧) 児童・生徒の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。

学習指導要領解説 道徳編（平成20年9月）

- 数値による評価ではなく、記述式であること。
- 他の児童・生徒との比較による評価ではなく、児童・生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。
- 他の児童・生徒と比較して優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要があること。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- 発達障害等の児童・生徒についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。

個人内評価の考え方

他の児童・生徒との比較による評価ではなく、児童・生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として、記述式で行う。

児童・生徒の学習状況の把握と評価

- 道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握が必要である。
- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが重要である。

児童・生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うという道徳科の目標に照らし、児童・生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます観点から行うもの。

児童・生徒の道徳性に係る成長の様子

- (例) ・一面的な見方から、多面的・多角的な見方に発展しているかどうか。
(発言や感想文、質問紙の記述等から見取る。など)
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。
(登場人物を自分に置き換え、具体的にイメージして理解しようとする。など)

⑧「特別の教科 道徳」(道徳科)について 学ぶ! Q&A

Q1 「特別の教科 道徳」になった背景は?

A1 道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものとされてきました。しかし、歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること、他教科に比べて軽んじられていること、読み物の登場人物の心情のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなど、多くの課題が指摘されました。

心と体の調和のとれた人間形成を目指す道徳教育を推進することは重要であり、その要となる道徳授業が計画的かつ効果的に実施される必要があります。つまり、道徳の教科化の背景には、全ての学校で全ての教員がしっかり道徳教育を行うこと、週1単位時間の道徳授業を確実に行うという「道徳の量と質の向上」にあります。

Q2 「特別の教科 道徳」が始まると、今までとどんなところが変わりますか?

A2 教科化に伴って、次の4点を確認しておきましょう。

- ① 指導の内容項目が追加されます。(右表参照)
- ② 検定教科書を使用した授業を行います。
- ③ 評価を実施します。
- ④ 指導方法の改善・充実が図られます。
(問題解決学習や体験的な活動を取り入れた学習等)

小学校に新設された内容項目

低学年：●個性伸長 ●国際理解

●公正、公平、社会正義

中学年：●相互理解、寛容

●公正、公平、社会正義

高学年：●よりよく生きる喜び

Q3 「考え、議論する道徳」とは、どのような授業ですか?

A3 道徳科となっても道徳授業の目標は変わりません。読み物教材をきっかけに、話し合いを通して道徳的価値について多様な考えに気付く授業、道徳的価値について自分のこととして深く考えられる授業を実践することが求められています。話し合いが目的になっては本末転倒です。自己理解が深まる話し合いを展開することが重要です。

Q4 検定教科書は、どのように使用していくのですか?

A4 道徳科は、小学校では2018年度から、中学校では2019年度から、検定教科書を使用する義務があります。重点的に指導する内容を複数回にわたり授業する際、教科書に対応する教材がない場合があります。各学校にすでに配布されている文部科学省や東京都及び町田市版副読本などの教材をご活用ください。他に、映像メディアや写真等、多様な教材の活用が考えられます。使用する際には、児童がどのようにねらいとする道徳的価値を受け止めるのかを考慮し、提示や発問を工夫してください。

Q5 道徳科の評価はどのように行うのですか?

A5 道徳の評価について文部科学省 平成28年7月通知により、「学習活動における児童・生徒の『学習状況や道徳性に係る成長の様子』を個人内評価として見取り、記述で表現することが適切である」と示されています。道徳科の指導において、1単位時間の指導だけで、その成長を見取るのは難しいです。児童・生徒が伸びやかに自分の考えを話したり、友達の考えから様々な思いを巡らし書くことで表現したりする中で、顕著と認められる様子を含め、個々を認め、励ます評価を行います。

そのためには、何を基に、どのような方法で評価を行うか共通理解が必要です。

Q6 各学校で行う重点的な指導とはどのように進めていくのですか？

A6 校長の方針の下、児童・生徒や学校の特色を考慮して、学校で重点的に指導する内容項目を決めましょう。学校の教育活動全体を通じて道徳的価値を意識しながら、重点的な内容項目を踏まえた指導を行うことで、より児童・生徒の実態に応じた効果的な指導が実現します。

Q7 道徳教育の全体計画や年間指導計画を見直すポイントは？

A7 道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通して行うため、校長の明確な方針の下、道徳教育推進教師を中心に全教員で作成してください。特に、全体計画では、重点内容項目を明確にして、効果的な指導を目指した計画になっているか、評価の方法や計画について示している見直し、改善を図ってください。年間指導計画では、重点内容項目の指導を適切に配列しているか、他教科等及び体験活動等との関連を図った指導が計画されているかに留意して計画の作成を進めてください。

Q8 いじめ問題に対する道徳授業を行う必要がありますか？

A8 今回の改正は、いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることなどを示したものです。学校のいじめに対する認識が問われると同時に道徳教育の役割が見直されました。

「いじめ問題」そのものに注目し、指導する生活指導の側面だけでなく、その根本にある人間の弱さを見つめ、自己コントロールし、よりよく生きるための基盤となる力を育てる道徳教育が重要なのです。具体的には、道徳授業を通して、ただしく判断する能力を養い、生命の尊さ、自他を理解する心、思いやり、規範意識などについて、考え、話し合います。

○主な参考資料：小学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（文部科学省）
中学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（文部科学省）

2017年度 町田市「特別の教科 道徳」・規範教育検討委員会

【委員】

町田第一小学校	校長	宮島 徹
南中学校	校長	大川 武司
七国山小学校	主幹教諭	指旗 航太
町田第一中学校	主幹教諭	後藤 英二
鶴川中学校	主幹教諭	穴倉貴代美
金井小学校	指導教諭	佐藤 寛子
町田第三中学校	指導教諭	島田 一郎
町田第一小学校	主任教諭	佐藤 良平
成瀬中央小学校	主任教諭	松田 和代
鶴川第三小学校	主任教諭	笹尾かおり
小山田小学校	主任教諭	辻本 宏美
小山中央小学校	主任教諭	湊 喜美子
小山小学校	教諭	宮島 誠
つくし野中学校	教諭	並木 良太

【事務局】

町田市教育委員会	指導室長兼指導課長	金木 圭一
町田市教育委員会指導課	統括指導主事	熊木 崇
町田市教育委員会指導課	指導主事	酒井 章
町田市教育委員会指導課	指導主事	日向 義裕
町田市教育委員会指導課	指導主事	谷山 優司
町田市教育委員会指導課	指導主事	赤司 祐介
町田市教育委員会指導課	指導主事	奥田奈緒子